

2011 SUPER GT Rd,4 吉田広樹 〈スポーツランド菅生〉



今回のレースは宮城県仙台市のスポーツランド菅生で行われたのですが、サーキットに向かう途中でも震災の爪跡が見受けられました。今回のレースに、被災者の方を500人無料で招待するようにGTA様が企画して下さいました。このレースが被災者の方にどれほどの影響を及ぼすかわかりませんが、少しでも元気になってもらえるような走りができるように心がけて挑みました。また今回はチームのADドライバーをつとめるメルビン選手のお子様が誕生されたタイミングと、レース日程が重なってしまいレースに参加することが出来ませんでした。そこでGT500やF-NIPPONの経験も豊富な横溝直輝選手にレースウィークの火曜日に急遽連絡をとることができ、チームに加入していただく事になりました。

7月30日 フリー走行 NET

この日は前日までの天気とは違ってかわり、雨模様の中フリー走行がスタートしました。前回のマレーシアの経験から基本的な持ち込みセットを変更してきたのですが、先ずはその部分のチェックを行うため私がステアリングを握ります。マシンの挙動を確認した後、さっそく横溝選手に交代し周回を重ねてもらいます。横溝選手が徐々にタイムを更新してくれたおかげでポジションも徐々に上がっていきます。そこからは徐々にセッティングを変更していくのですが、雨量や路面



THUNDER
RACING ASIA

<NO.1>

2011 SUPER GT Rd,4 吉田広樹 〈スポーツランド菅生〉

コンディションにあわせてタイヤのコンパウンドや溝の深さも合わせていきます。また週末を通して変わりやすい天候が予測されたため、WETだけに特化したセッティングではなく多少タイムは犠牲になっても、DRYコンディションになった際にも対応できるような幅広いセッティングを目指して進めていきました。最終的に11番手のタイムでセッションを終えたのですが、短いフリー走行の中で今後のマシンの方向性などタイム以上に意味のあるセッションになったと思います。

公式予選 WET→DRY 11番手/22台中

午前のフリー走行を終えチームでミーティングを行いました。予選時間に近づくにつれ徐々に路面はDRYコンディションへと変化していきましたが、相変わらず不安定な天候の中予選セッションがスタートしました。今回の予選も前回に引き続きスーパーラップ方式だったため、1回目の予選で10位以内に入る必要があります。ミーティングの結果今回のアタックは横溝選手にお願いすることになったため、私はセッション開始と共にコースインし基準タイムをクリアすべくアタックを開始します。計測2周目には基準タイムをクリアしたためすぐに横溝選手に交代。変わりやすい天候だったため、GT5



00クラスとの混走時間ではありましたが、すぐにコースインしてもらいアタックしてもらうことになりました。横溝選手のアタックで徐々にタイムを更新し、3番手にまでポジションを上げて貰います。しかし変わりやすい路面コンディションということもあり、周りのマシンもタイムアップしていくため10番手までポジションを下げてしまいます。ここから再度横溝選手もアタックを開始したのですが、マシントラブルが発生してしまいグラベルストップ。最終的に11番手で公式予選を終えたため、スーパーラップは後一步というところで逃してしまいました。



2011 SUPER GT Rd,4 吉田広樹 〈スポーツランド菅生〉

7月31日 決勝レース DRY リタイヤ

マシントラブルの予選から一夜明け、マシンはメカさんたちの懸命な作業により修復することが出来ました。予選後、決勝日の天候も考慮し、ギア比やセッティングを変更したためフリー走行では積極的に周回を重ねます。路面コンディションは完璧なWET路面でのセッションスタートでしたが、燃料は決勝レースを想定した分だけ搭載し、その際のマシンバランスを確認しながら走行を重ねます。セッション後半路面が乾いてきたため横溝選手にドライバー交代し、マシンバランスの確認と浅溝タイヤの確認もしてもらいます。セッション後半にはスリックタイヤで走行するチームもあるような難しいコンディションでしたが、横溝選手のアタックにより2番手で最後のフリー走行を終えることが出来ました。フリー走行終了後ミーティングを行い、今回は横溝選手にスタートしてもらうことになりました。朝のフリー走行のバランスもよかったためスタート直後からの追い上げが期待できます。午後に入り時折ポツポツと雨粒が落ちてきましたが、DRYコンディションのなか決勝レースがスタートしました。スタート直後から横溝選手による追い上げが始まり、周回を重ねることにポジションを上げています。そして3周終了時点で3台をパスし8番手までポジションをあげていた最中、急にエンジンがふけなくな

りまさかの失速。横溝選手もどうにかピットまでマシンをドライブしようと試みましたが、大事をとってピット入り口脇のファイアーステーションにマシンをストップ。ここでリタイヤとなってしまいました。マシンのバランスもよく、どんどん追い上げていただけに本当に残念です。スポンサー様、関係者の方々、また応援してくださった沢山の方々には本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかし私の中では大きな一歩となったレースでした。今回初めて横溝選手とドライブさせていただけましたが、セッティングの進め方やテストメニューの組み立て方、また自分の足りない部分を多く発見できました。さらに、今までとは違うプレッシャーの中ドライブしたりと本当に貴重な経験ができたレースウィークでした。経験を重ねるごとに一歩ずつ前進していく部分もあると思いますが、周りがそのスピードに合わせてくれるわけではありません。その事をしっかりと理解し一戦一戦大事に走っていきたいと思います。シーズンも折り返し地点となってしまいましたが、少ないチャンスをしっかりと活かしチーム一丸となって頑張っていきたいと思います。それでは引き続きご指導、ご支援宜しくお願い致します。

Thunder Asia Racing
吉田 広樹



THUNDER
ASIA
RACING

<NO.3>